

岡本眸の冬の句

掌で叩く朝の洗面冬はじまる
晴るる日の身のよく動く石路の花
満目の冬や点眼薬小さし
何匂ふともなく冬の香を感じず
時雨忌やつかのまの星海に見て

松岡隆子 抽